

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171600240		
法人名	社会福祉法人 江差福祉会		
事業所名	シルバーハウス ケープ赤石		
所在地	爾志郡乙部町字元和84-8		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で、屋外での食事会等。また、散歩をし花を愛で、畑でのトマト、ジャガイモ、トウモロコシ等の植付けから、草取り、収穫まで入居者、職員一緒に作業、そして新鮮な収穫物を食すること。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0171600240-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年5月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ケープ赤石」は樺や楓・桜などの大木に囲まれ、日本海を臨む自然豊かな地域に開設して14年が経過している。以前ペンションであった木造2階建ての建物の1・2階部分を居室にしている。天井が高く、開放感がある食堂や広い調理室はそのまま使用し、囲炉裏を備えた総ヒノキ造りの日本間も残している。また、施設敷地も広く気候の良い時期は芝生の上で野外食事会やお茶会・流しそめんなど楽しみ事の機会を積極的に確保している。利用者は、職員が中心となって作った家庭菜園で野菜を収穫し、花壇で育てた花々を愛でることで、季節の移ろいを五感で感じながら穏やかな暮らしをしている。管理者と職員は、常に利用者の思いに温かく寄り添い、後悔しないケアを心におき、より質の高いサービス提供に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者さんが自宅のように暮らせるために、個人のプライバシーを守り認知症専門という地域での拠点として啓発しています。	管理者は、折に触れて理念を振り返る機会を確保して、全職員でその意義を確認し意識づけることで、具体的なケアにつなげる取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の花見や敬老会に参加し地域の方々と交流をしております。	散歩時や畑の作業中にご近所の方と談笑をしたり、日常的に野菜・魚介類などの差し入れが届いている。ご近所付き合いを大切にし、町内会便りも定期的に届けられ、町内の様々な情報を得ている。成年後見人養成講座など、実習生の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議や家族・来客時に話しをし理解されています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では経過報告として、入退去やケープ赤石での取り組みについて話しをし意見は取り入れてサービス向上に取り組んでいます。	行政や町内会・家族の方々が出席し開催している。事業所の利用状況や重要案件の説明・外部評価結果の報告をし、出席者からは意見やアイデアをいただいているが、年6回の開催には至っていない。議事録は全家族に送付している。	今後は行事などに併せて開催し、会議の回数を増やす取り組みに期待したい。また、欠席した家族の意見も会議に活かされる取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	乙部町ケア会議に出席し、情報交換や意見交換を行い連携を図っています。	町の担当者とは、直接出向いて書類作成の事や利用者の生活保護費受給の件などで相談し合い、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。	身体拘束廃止マニュアルを整え、外部研修報告資料と共に、いつでも見られるように事務所に保管している。マスコミなどで取り上げられた事例を基に内部研修を積み重ね、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯の為夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講演会やそれを職員会議の場で話し啓発している。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用する入居者はいないものの、講習会に参加し機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の権利等を渡し書面、口頭で十分に説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が来所された時に、日常の生活や状態を話しその時に意見を聞いています。	面会時や電話・手紙で常に問いかけ、些細な事でも話しやすい様に雰囲気づくりに配慮している。表出した課題は全職員で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やケア会議にて意見を聞きそれを運営に活かしております。	管理者は、日頃から職員の意見や提案に真摯に耳を傾けている。職員会議で話し合っ運営やケアに反映できるように取り組み、入浴日や行事の時は職員数を多く配置することにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、人事考課の準備はしていたが実施には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	檜山支庁や南GH協議会の研修会に参加出来るよう配慮をし、それを職員全体で共有出来るように発表の場と回覧をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	檜山管内ケアマネジャー連絡会、南GH協議会に参加し情報の交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人やその家族の方と話しをし、それをケアプランに活かし入居してからも安心出来るよう支援しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と家族の方に話しを聞き、それをケアプランに活かし安心して暮らせるように支援しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人と家族の方に話しをし、必要な支援の把握に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者の方との話しや新しい気づきがあり、それをケアプランに活かしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に現在の状態を話し、問題点について共有し話し合っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来訪されたり、入所する前に行っていた美容院や知っている方が通院する時間に合わせることを行っています。	家族の意向で長期外泊をしたり、墓参りもしている。受診の帰りに昔から利用している商店で買い物をしたり、自宅周辺に立ち寄り、出来るだけ地域との接点を持ち続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わられるように、毎日作業等や孤立させないために常に職員が側で見守りを行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や特養へ移った方などとも、面会や見舞いを重ねています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人が話した言葉を大切に、今の状態の把握に努めております。	事業所で最期を迎えたいと自分の思いを職員に積極的に伝える利用者もいるが、把握が困難なであったり、不確かな場合は、本人の視点に立って全職員で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのように生活してきたのかを聞き、それを踏まえてケアプランに活かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人一人の状態を把握しながら支援を行っております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議やモニタリングにおいて、何が問題かを話し合いそれをケアプランに反映させています。	毎月のケア会議でアセスメントを含め全職員でモニタリングを丁寧に行い、本人と家族の意向やアイデアを反映した介護計画を作成している。介護計画の実施状況は日々の介護記録に連動させ、次回の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化があった時は、ケース記録や経過記録に詳細を記入しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町民文化祭への出展や見物、家族の状況に合わせて帰省を行う等多様なサービスを提供しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や警察や消防等の協力は得ていますが社協との連携を深めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に病院受診を原則としており、良い関係を築けています。また、急変時等にも十分な対応を下さっています。	かかりつけ医の継続は、利用開始時に本人と家族に意向を確認している。通院介助は家族と協力しながら行い、受診結果は電話や面会時などに報告をして、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護師の確保はしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医のいる入居者の方は、本人や家族の意見を交えて病院と繰り返し話し合い全員で方針を決めて働きかけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りの指針を作成し、それを家族の方に渡し説明を行って理解を得ています。	看取りの指針を作成して、利用開始時に本人と家族に十分説明をし、同意書を作成している。本人の状態の変化に応じ、主治医の判断の下、家族と方針を共有し、可能な限り対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習を受講していますが、定期的に行われていないため力量不足です。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い防災意識を高めています。また、非常時は近所へ協力を要請しております。	定期的に昼・夜を想定した防災の自主訓練を行っている。消防署の協力を得た避難訓練と地域との協力体制の構築がこれからの課題となっている。備蓄品の整備も充実させてゆく意向である。	消防署の協力の下、地域の方々の参加を得て、地震などを想定した避難訓練の実施を期待したい。地域との協力体制を整え、避難訓練に参加していただけるような働きかけに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、その時々に応じた声掛けや対応を行っております。	管理者と全職員は利用者の尊厳やプライバシーの重要性を理解し、職員同士、日常的に些細な事でも都度チェックし、確認合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の言葉を大切にしながら今の状態を把握し声掛けを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者さんのペースで過ごして頂いていますが、時には職員側の都合で動く事もあるのでそれが反省点です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着用しがちであり、入浴後や声を掛けて替えて頂いていますが同じ服でないと落ち着かない方もいるのでその方々に合わせ対応しております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や行事、またはその方の好物を提供することで喜ばれております。 食事後は食器洗い等を行って頂いております。	同法人の給食センターから食材や副食が配送され、また、差し入れの旬の食材を利用して好みの料理も提供している。隣のレストランで食事会を行い、利用者はそれぞれに好きなものを食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いが多い方もおられるので、その方々が食べられるように提供をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し状態も確認しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握することにより、布パンツに替えることに成功しております。	殆どの利用者が自立しており、日中はトイレでの排泄を支援しているが、夜間はポータブルトイレを使用している方が多く、特にふらつきがあり転倒の心配がある利用者には、家族の同意を得てセンサーを設置して起き上がりを確認し、排泄介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、体操や水分摂取をしその方に合わせ薬の調整をしております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人、その日の状態により入る順番を替えております。また、仲の良い入居者同士一緒に入りたいと話される方もいるので希望を叶えるよう支援しております。	週2回の入浴を基本としおり、体調や気分によって順番や曜日を変えて臨機応変に対応し、日本海に沈む夕日を見ながらゆっくりと入浴出来るように配慮している。拒否する方には、男性職員が声かけをしスムーズに入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその日の状態や、生活習慣に合わせて気持ちよく就寝出来るように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の入居者の薬の用法や用量を理解しそれを記録しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人、役割を持って生活し楽しんでいる姿や気分転換に繋がっております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ散歩を行えるよう機会を増やしたり、買い物や外での行事やイベントに参加出来るように心掛けています。	気候の良い時期は、体調や気温を考慮しながら近所を散歩したり、戸外で日光浴をしている。本人が希望する時は、通院時を利用して買い物や軽食を楽しむなど個別に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことにより、使用目的を考え楽しく暮らして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、本人が家族等へ電話をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションで作った作品や行事等で撮った写真を展示する等工夫しております。	玄関や食堂・階段の踊り場に、利用者と職員が力を合わせて大切に育てている観葉植物を配置して、目にも優しく、また、家庭的な雰囲気や生活感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然とそれぞれ決まった居場所が出来、そこで話しをしたり思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する時に今まで使用されていた物を置くことにより、安心感を持って暮らしております。	使い慣れたお気に入りの家具や思い出の品々を一人ひとりのセンスを活かして配置し、個性あふれる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らせるように、廊下に手摺りを設置し自分の力で歩けるよう促しております。		

目標達成計画

事業所名 シルバーハウス ケープ赤石

作成日：平成 27年 6月 4日

市町村受理日：平成 27年 6月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が年6回の開催に至っていない。	・開催の回数を増やす。 ・欠席した家族の意見を活かす。	・開催を行事などに併せて行うとともに、案内や開催の工夫を行う。 ・出来るだけ多くの家族の方からの意見を取り入れます。	1年
2	35	消防署の協力の下、地域の方々の参加を得た避難訓練の実施がない。	・消防署の協力の下、避難訓練を行う。	・避難訓練が出来るように消防署に情報の提供を行い、連携を図っていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。